

# 厚生福祉



時事通信社

104-8178 東京都中央区銀座5-15-8 時事通信社  
 昭和28年5月30日 第3種郵便物認可  
 毎週2回火・金曜日発行(但し祝日を除く)  
 購読料金 税抜月額4,100円  
 本誌掲載記事・写真などの無断複写、複製、転載を禁じます。  
 ©時事通信社2017  
 ◎誌面内容に関するお問い合わせ(編集部)  
 kousei-dokusha@jiji.com

## 目次

### 新しい福祉モデルの示唆

10月21日から仏ナント市において、障害者の文化芸術国際交流事業「ジャパン×ナントプロジェクト」が開催される。文化庁と仏国立現代芸術センター「リュウ・ユニック」とナント国際会議センター「シテ・デ・コングレ」の日仏共催である。日本からは、障害者の舞台芸術公演として長崎の瑞宝太鼓や島根の石見神楽などの現地公演があり、生の芸術といわれるアール・ブリュット作品約1000点が送られ、仏側による命名で「KOMOREBI(こもれば)展」として展示される。

仏側からは「障害のある人の文化芸術に対する日本の取り組みは世界の見本」「木立から漏れる

元・駐スウェーデン・渡邊芳樹  
 特命全権大使



光は細いものだが、だからこそ本心に強い力を持つ。日本のアール・ブリュットを表すのに適切等の言葉が寄せられている。

ちなみに、来年5月にはスウェーデンでのアール・ブリュット「ジャパン×スウェーデン展」も予定されている。

アール・ブリュットは、福祉の世界から見ると、「この子らを世の光に」という言葉を残した糸賀一雄氏が戦後間もなく始めた創作活動支援が嚆矢であるが、一般的には単なる支援手法とされてきた時代がある。しかし、今日では対象者本人の無作為かつ高度な芸術作品としてそれ自体を評価し、全国的にその発掘評価が進んでいる。

そこには、福祉と芸術のシームレスな協働関係が生まれている。これは、近年の福祉理念がノーマライゼイションを基調にQOLや尊厳、自立支援、当事者性の重視などと発展してきた流れにも対応する。

障害等による生きづらさとしての凹を埋める「必要な支援と可能性の付与」(ニリーエ)がノーマライゼイションだとすれば、障害等の有無にかかわらず凸と突出する個性と能力の社会的評価に基づき本人・支援者のみならずあらゆる人を勇気づけ、多元的な文化や多様な他者を尊敬する心を育み、共生社会の基盤を形成する。

アール・ブリュットの発展は芸術ジャンルの確立にとどまらず、新しい福祉モデルを示唆するものではなからうか。